先人の知恵から

48

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

今回は「は行～ひ行」から以下の10個。
引き続き飛ばし気味で書いていきます。最
後まであと少し、どうぞお付き合いくださ
い。

- ^は這えば立て立てば歩めの親心
- 始めが大事
- 恥を知るは勇に近し
- 八分されても未だ二分残る
- 話半分
- 早い者に上手なし
- 早起きは三文の徳
- 張り子の虎
- 膝とも談合
- 人の一生は重荷を負うて

遠き道を行くが如し

〈這えば立て立てば歩めの親心〉

子どもが這うようになると、早くたつよ
うにならないかと思い、立つようにな
ると、早く歩くようにならないかと思う。子
どもの成長を楽しみに待ちかねる親心を言
った言葉。「這えば立て立てば歩め」「立て
ば歩めの親心」ともいう。

子どもが生まれるまでは、早く生まれて
ほしいと思い、生まれたら早く歩いてほし
いと思い、そして、歩けるようになると早く
言葉を話すようになってほしいと思う。子
どもが生まれてから言葉を話し、ある程度
やり取りができるまで平均的には3年ちょ
っとか。子どもはものすごい勢いで発達し
ていく。体も脳も心も。生まれてすぐは、授
乳で睡眠が奪われ、疲れがたまる。「なんで
泣いているのかわからない。」「うるさくて
口をふさぎたくなる、イライラする」時々母

親からそんな言葉が聞かれる。「赤ちゃんは泣くのが仕事」と言われ「泣くのが仕事って何！」と怒っている母親にも会った。

一人の空間が子どもの頃から保障され、学校でも我慢すること、耐えること、頑張る事が減って来た。面倒くさいことを面倒くさがらずにやることも減った。タブレットでチャチャッと調べ、宿題もタブレットでやる時代である。何でも素早く答えが出て、素早く解決できる、そんな時代が良しとされている今、子育てはそういうわけにはいかない。

ネットで調べたようには進んでいかないし、一人一人個性があるから対応も異なるのだが、一般的な子どもについてか、子育て中のママたちのサイトでは、書き込みしているママのお子さんの話や伝聞でしかないから、我が子に当てはまるとは限らない。

そうした情報に振り回されながらの、乳児の子育ては中々体力がいるし、根気もいる。一足飛びに歩いて話すようにはならない。早く育ててほしい、大きくなってほしいという気持ちは誰もが持つもので、それ自体は一般的である。昨今の問題は、そういう成長を楽しむのではなく、今の現状を嘆き、現状にイラつくことにある。

育ててしまえば、まだろくにおしゃべりもできなかった頃の可愛さが懐かしく、思春期でもめている保護者にとってみれば、あの頃に戻りたいとさえ思うのである。

保護者達には、この諺と一緒に、育ててしまふとこのころが懐かしく、戻したくなるという話も添えて、今のこの可愛い時期をできる限り楽しもうと伝えている。

<始めが大事>

何事も最初が大切であるということ。最初にとった方法や態度が最後まで影響するので、物事を始める時にはよく考えてから取り掛からなければならないという教え。

「始めよければ終わりよし」は類語。

出典 易経

何事も始めが肝心。物事を始める時はよく考え、準備をしてから始めるとスムーズに行くことが多い。しかし考えすぎてしまうと始めることが難しくなる。程々が必要かもしれない。子育てでも同じで、生まれてから5歳くらいまでの対応が、その後のその子の人生に大きく影響を与える。

完璧な子育てというのは無いので、そこを求めたら自滅する。程々でありながら適切な子育てが必要となる。行き当たりばったりでも、保護者が臨機応変に対応できる人であれば何とかなるが、不器用な保護者においては準備をある程度しておかないとパニックになる。

子どもというのは何をするかかわらないところがあるので大変である。予測可能な範囲はある程度考えておいた方が良いが、それを越したらどうするか？子育て中は、遠慮なく周りに助けを求めるべきである。どんなことでも良い。先ずは夫や妻、保健師や保育所の先生、父母兄弟、義父母義兄弟、親戚、友人。誰でも良い。自分は一人ではないのだと知っておくことは大切である。その上で、生まれてから5歳くらいまでを、子ども中心で、甘やかすだけではなく、年齢相応に必要な躰をしつつ、集団生活ができるように少しずつ育てていくことが大切なのである。特に3歳までは、先走らず、ゆっく

りゆったりと。

英語では・・・

An ill beginning has an ill ending.
(始まりが悪いと終わりも悪い)

<恥を知るは勇に近し>

これは恥ずかしいことだと知る人は、勇気のある人と言える。また、自分の誤りを率直に認めるのは、勇気が必要だということ。

出典 中庸

この諺は、特に自分の問題を認めようとしない人に使うことが多い。自分の問題だと気づいていても、誰かのせいにして、その誰かをずっと責めているという子に度々出会う。発達の問題があったとしても、自分の問題は自分のこととして認めていかないと永遠に人との良い関係性は望めない。

自分の欠点や間違いを人に指摘されるとカチンときて逆切れするパターンは多くみられる。誰でも自分のダメなところや失敗を指摘されるのは厭なものである。しかし、それを素直に認め、改善していこうとすれば、自分は成長するし、周囲からも認めてもらえる。

恥ずかしいかもしれない、辛いかもしれない、それでも、人が指摘してくれたこと、自分で気づいたことはしっかり認め、確認して、修正していこう。そんな話をこの諺を伝えながらしている。

<八分されても未だ二分残る>

仲間外れにされても、へこたれないということ。村八分になっても、まだ二分残っているということから。八分=つき合いから外されること。絶交。

この諺は、小学校高学年から中学校の子どもたちに使っている。特に女子だが、グループ化が進むとどうしても仲間外れの問題が起こる。そんな時に、そのグループからは仲間外れにされても、他にも同級生は色々いるし、一人で居られる強さもついでに作れたら最高と伝える。一人になることが怖くて、みんなグループの中で村八分にならないように、凄く気を遣っている。そんなに気ばかり遣っていたら疲れてしまう。ひたすら自分の意見は言わず、何時も笑顔で、という自分は本当の自分ではない。いやな気分の時もあるし、調子が悪い時もある。それなのに気を遣ったら余計に調子が悪くなる。挙句に不登校になったりする。

クラスには大抵強い子がいて、その子がグループを仕切る。その強い子がいつも正しいことを言っているわけではないだろうし、その子の言うとおりにばかりするのは、下僕ということである。下僕で居たいのか？

自分と他者とのぶつかり合いがお互いを成長させる。小学校から中学校はそういう時期である。喧嘩になっても村八分になっても自分を通したり、自分を引っ込めたり、いろいろしてみる必要がある。ずっと我慢して、ずっと引っ込んでいたら、自分の存在価値を認められず、自己肯定感も上がらない。もっと自分を成長させるためにも、村八分を恐れるなど。そんな風に子どもたちに

伝えている。

<話半分>

おもしろい話にはうそや誇張が含まれているから、半分ぐらいに割り引いて聞いておけばちょうどよいということ。また、話が全部すんでいないことや話の途中であることにもいう。

今の時代ネット情報が多すぎて、しかもフェイクニュースも飛び交う中、何が本当で何が嘘かを見分けるのがとても難しくなった。AIが登場し、本人かと思ったらAIで作られたもので、詐欺だったりということも多々ある。噂話も広がるのがネットを使うからものすごい勢いで全世界に広まる。そこにAIが入り込むわけで、実しやかな情報になって更に広がる。

某国のトップみたいに、権威や権力のあ
る人がインスタなどにあだこうだとフェ
イクを入れ混ぜて書かれたら身も蓋もない。

「話半分」とは言うが、むしろ「話五分の
一」くらいに見たほうがよいのかもしれない。ネットの情報を信じて話をしたら、大変なことになるかもしれない時代だ。くわばらくわばら。

英語では・・・

Believe half of what you hear of
money,
health and good faith.

(金と健康と誠意についての話は
半分だけ信じろ)

<早い者に上手なし>

仕事の早い者は、その反面、できあがり
がよくないということ。また、早く仕上げよ
うと急ぐと、仕事が雑になりやすいとい
うこと。拙速をいましていう。「早かろう悪
かろう」は類語。

不器用で手が遅い子がいる。母親が
いる。そういう子どもや母親にこの諺を
伝えている。早ければよいというもの
でもない。「急いで事は仕損じる」とい
う諺を加えて、自分にとって程よい
ペースというのがあるので、それを大
事にしていこうと。特に乳幼児の子
育て中の母親には、急ぐよりゆっ
くり、ゆったりの方が大事だからと
伝える。

世の中がコンマ何秒の世界になり、
情報伝達も早くなって、みんなが
気ぜわしく動き回っている様子を
みると、どうしても焦ってしまう
だろう。時間に追われている人は
多い。職場でも、入社早々結果を
求められて潰れた人も見てきた。
ろくに研修もせず、教えるも
せず、仕事が出来ないのに。昔
仕事は見て覚えろと言われたが、
見る時間があった。見る時間
もなく覚えるのは無理難題とい
うものだ。マニュアルがあったら
マニュアルを見ろという。マニ
ュアルが事細かに描かれている
かと言えばそうでもないだ
ろう。

早く、早く急かされて、子どもも
大人も息切れしている。自分の
ペースを守って、少しゆっくり
やったからって命盗られるわけ
ではない。戦争中で命がかかる
なら話は別だが、そんな状況
下ではないのだから、誰が何
と言おうが、自分のペース、
子どものペースを守ってやっ
ていこう。そのほうが良い
結果を招く。それが社会共通
になることを

願ってやまない。

英語では・・・

Fool's haste is no speed. (馬鹿の急ぎは速さにならない)

Good and quickly seldom meet. (「良い」と「早い」が両立することはめったにない)

<早起きは三文の徳>

早起きは健康にも良く、何かと得をすることがあるということ。三文=ごくわずかの金のこと。徳=得に同じ。{朝起きは三文の徳}ともいう。

宵っ張りの朝寝坊の子どもが増えた。寝るまでスマホをいじっているから、寝るのが遅くなるし睡眠の質も悪い。その結果朝からぼーっとしてたり体調が悪かったりしている。

朝、早めに起きて、朝日に当たる。しっかりご飯を食べて準備をして出かける。夜はその分少し早めに寝る。こうした規則正しい生活を続けることが鬱防止にも役立つ。

また、朝時間があると、ちょっと勉強出来たりもする。朝は学習の能率が高いし、集中しやすい。夜遅くまで宿題を頑張らせている保護者を見かける。子どもは寝落ちしそうな中宿題をやらされて、夜10時11時にもなってしまう。酷い時は日をまたぐ。そんなことをしている保護者には、さっさと寝かせて朝早くおこし、朝宿題をやらせた方が速いかもと伝える。小学校の宿題はそんなに時間のかかる物でもない。30分も

あれば終わる。だからこそ、30分早く起こして目がしっかり覚めたところで宿題をさせたらよい。

朝少し早起きして、天気が良いければ散歩すると、鳥や花木、気持ちの良い空気、散歩中の犬など、出会うものが沢山あって、それを楽しめると精神衛生上も良いし、体のためにも良い。心と体は一体である。早寝早起きは、特に子どもではとっても大事だと思うのだが、最近の子は遅寝遅起きだ。

英語では・・・

The cow that's first up, gets the first of the dew.

(最初に起きた牛は最初の朝露を吸う)

The early bird catches the worm.

(早起きの鳥が虫を捕まえる)

<張り子の虎>

主体性が無く、人の言うことにただうなずいている人のたとえ。首を振り動かす癖のある人にも言う。張り子で作った虎のおもちゃは、よく首を振る仕掛けになっていることから。また、名前は虎だが紙のおもちゃであることから、弱いくせに強そうに威張っている者のたとえにもいう。

前述の仲間外れのところでも書いたが、下僕化すると自分がどんどんなくなっていく。この張り子の虎のように、中身が何も無いことになる。それを望む子はいないと思う。

また、弱い犬ほどよく吠えるというが、虎の恰好をしていても所詮張り子という子も

見かける。そういう子どもたちにもっと自分をしっかり持ってほしくてこの諺を使うことがある。

ところで、筆者が子どもの頃間違った使われ方をしていたのかなと思う。小学校の頃、学校が遠かったので、雨の日は面倒で行きしぶりがあった。そんな時よく母親に「張り子の虎じゃあるまいし」と言われた。「濡れたらだめになる張り子ではないのだから、雨でも行きなさい」という意味で使っていたと思う。そういう意味は本来この諺にはないのだが、「言い得て妙」とはこのことだと今は思う。

<膝とも談合>

困ったときには、相談するに足りないような人にでも、意見を求めてみればそれなりの成果があるものだということ。考えがまとまらずに困ったとき、膝を抱えて考えるが、それが自分の膝と相談しているようだということから。談合＝話し合うこと。相談。

困ったとき、誰かに相談してみようと思う人と、全く思わない人が居る。人を当てにするということではなく、自分だけで考えていても、考えには限界があるということに気づいているかどうかであろう。まずは自分で考えてみる、それは大事なことで、最初から誰かに頼ればよいということではない。しかし、自分が考え付くことは、所詮自分の知識・経験の範囲のことで、そこから出ている事柄については想像の域なので、想像力の多少にも関わる。人というのは考え

込むと悪いほうにしか考えられなくなっていく傾向があるように思う。「下手な考え休むに似たり」ともいうが、無駄に考え込むより誰かに相談したほうが良い。どんな相手であっても、自分以外であれば、自分とは違った捉え方、考え方、解決法が出てくるだろう。相談する力、相談できる力はとても大事である。そんなことを伝えたくてこの諺を伝えている。

<人の一生は、重荷を負うて、

遠き道を行くが如し>

人の一生は苦しく長いもので、生きていくにはたゆまぬ努力と忍耐が必要であるということ。

「徳川家康遺訓」の冒頭の一節。『論語』にある「任重くして道遠し」をもとにしたことば。

「人生苦あれば楽あり」という諺もあるが、「現世地獄」という言葉もあるように、「生きる」ということは苦しく、辛いものである。勿論楽しいこともあるのだが、所詮楽しいことはさっと流れてしまい、辛く苦しいことばかりがこびりつく。

苦しいから、辛いからと自殺を考えてしまう若者も増えた。最近では十代の自殺者の増加が目立っている。だからこそ、子どもたちには伝えたい。人生は辛くて苦しいことが沢山ある。でもそれを耐え忍び、乗り越えていくことで成長していくのだと。途中であきらめずにいれば、必ず今の問題は乗り越えられる。そしてその先にはさらに大きな山があるかもしれないが、いつかは頂上

にたどりつき、その先の景色を見られるのだと。

楽しいこと、嬉しいことも忘れずに、流さずに保って行けたらもっと良いと伝える。楽しいこと、嬉しいことを忘れがちな子どもには、日記に今日楽しかったこと、嬉しかったこと、ちょっとした小さな幸せを書き留めてもらうようにしている。それを続けると、楽しいこと、嬉しいこと、小さな幸せを探すようになるから。

英語では・・・

The life of man is a winter' s day and a winter' s way.

(人の一生は冬の日、また冬の道である)

出典説明

易経・・・十二編

周代の占いの書。儒教の五経の一つ。今日文とその解説書の「十翼」を合わせて十二編よりなる。陰と陽を組み合わせて八卦、これを重ねた六十四卦によって、自然と人間の変化の法則を説いた書で、中国の哲学思想のもとになった。作者として、週の文王、周公、孔子があげられるが、確かではない。

参考文献：以前にも掲載したが、此処に載せている故事・諺及び出典説明は「新明解 故事・ことわざ辞典」三省堂編修所編 より転載させていただいている。